

S讃歌 sanka

京都九条病院 Communication Book

vol.60 Special Issue

新型コロナウイルス対応 特別編集号

【特 集】コロナ禍約2年間の京都九条病院の取組み

- ◎コロナという禍の中、
苦悩の日々をみんなで乗り越えたことは、
私たち京都九条病院の誇りです。
- ◎その時々の状況にフレキシブルに対応し、
常に、必要とされる病棟の在り方を求めて。

- ◎実証的に感染者対応のノウハウを確立。
- ◎「私たちがやるしかない」使命感で乗り越えた約2年間。
- ◎感染対策の最前線、ストッパーの役割を任す「発熱外来」。
- ◎ワクチンを早く皆さんに届けるために。
- ◎PCR検査の総検査数は6300件超。
- ◎令和3年度 京都九条病院 永年勤続表彰



コロナ病棟担当医師
松井 寿美



院長
松井 淳琪

コロナ禍約2年間の京都九条病院の取組み

世界的な流行となつた新型コロナウイルス感染症。その未知のウイルスと戦い続けた

京都九条病院の現在までの取組みについて

院長をはじめ、院内の医師・スタッフにこれまでの状況や思いを伺いました。

コロナという禍の中、

苦悩の日々をみんなで

乗り越えたことは、

私たち京都九条病院の

誇りです。



Junki Matsui

京都九条病院 院長 松井 淳琪

——京都九条病院は、入院受け入れ数、発熱外来対応数、ワクチン接種数など、全てのコロナ対応で京都府でもトップクラスの貢献をしました。院長はどのように考えから、このコロナ対応の方針性を決められたのですか。

院長　当時、ニューヨークの悲惨な映像を見て、院長として一番思ったのは、どうやって職員を守れば良いのか、地域の患者さんを守れば良いのかということでした。

いざ職員やその家族、かかりつけの患者さんが重症化したときに、重症対応の感染症指定病院で治療をしてもらうには、その病院のベッドを空けるシステムを作らなければならぬことは自明のことでした。そのためには、受け入れるしかないと考えたのです。

役割を果たしてくれています。コロナ病棟の担当に指名されたスタッフも、全員が即座に「やります」と答えてくれましたし、非常

——京都九条病院は、入院受け入れ数、発熱外来対応数、ワクチン接種数など、全てのコロナ対応で京都府でもトップクラスの貢献をしました。院長はどのように考えから、このコロナ対応の方針性を決められたのですか。

院長　そうですね、はじめは特に怖かっただろうと思うと胸が痛みます。勤務を心配する家族を説得したり、家族と別れの挨拶をしたという職員の話も聞きました。

職員に納得してコロナ対応をしてもらうために、私がどう考えて、何をしようとしているのか、みんなの安全についてどう考えて

いるのか、そういうことを書いた「院長雑記」という名の手記を配りました。その後も何度も書いて、気持ちを伝えています。そして私の考えを理解した上で、全ての職種のひとたちが冷静に役割を果たしてくれています。コロナ病棟の担当に指名されたスタッフも、全員が即座に「やります」と答えてくれましたし、非常に高い使命感を持って臨んでくれています。

かかりつけの患者さんには、チラシを作つて、一人ひとりに安全策と受け入れをすることの必要性を説明しました。当時、患者さんがいなくなるかと心配しましたが、実際にはクレームもなく、逆に各所で励ましのお言葉をいただいたんですよ。

——それは何より心の支えになつたのではないでしょうか。では、実際にどのような対策を取られたのかお聞かせください。

院長　職員と患者さんの安全のためには、費用を惜しまず、できることを早急にしようと思い、一般病棟とコロナ病棟の間に工事をして壁を作りました。そして、職員や医師も専任とし、出入口はもちろん、ゴミの搬出やリネンの洗濯まで、全て別ルートでできるようにしました。こうして洗濯も入浴も散歩もでき、24時間、呼吸循環状態のモニターもできる全室個室の14床の隔離病棟ができました。

外来では、発熱者用のテントを立て、問診は遠隔でできるよう工夫しました。一般病棟の多床室では、全てのベッドとベッドの

OUR HOSPITAL CONCEPT

京都九条病院の基本理念

良質な医療を安定的に提供します。

さらに常に最大限最高の医療の提供を目指す

前向きな姿勢を持ち続けます。

OUR HOSPITAL POLICY

京都九条病院の基本方針

- ① 医療は患者さまとそのご家族と医療者が協同して行うものと考えます。
- ② 「奉仕の精神」を持ち、親切な対応、サービスの向上を心がけます。
- ③ 公平・公正で良質な地域医療を、安定的に提供し続けます。
- ④ 急性期医療に24時間対応し、専門性の高い高度医療を充実させます。
- ⑤ 治療に関する情報はすべて患者さまに開示し、分かり易く説明します。
- ⑥ 最先端の予防医学・健診技術を用い、「地域の人々の健康」に貢献します。
- ⑦ 地域支援の中核として活動し、トータルヘルスケアを進めます。
- ⑧ 各種研修指定施設として、高い技能を持つ人材を育成します。

間に間仕切りを作りました。

CT室、内視鏡室、ICU、血管造影室などでは、消毒・換気をしっかりとできるように、強力な陰圧換気装置を新設しました。

しかし、何より大事なのは、職員一人ひとりの感染防護の意識づくりです。どこで感染が起ころか分からないので、全職員が徹底的な準備と訓練をして、しっかりと向かってもらっています。

—— さまざまな防護体制を整えた効果はありましたか。

院長 これだけ多くのコロナ患者さんや発熱患者さんに対応していましたが、こうした防護体制により感染事故は一件も起こっていません。職員が外部で感染したケースでも、感染が拡大することはありませんでしたし、骨折

治療の患者さんが、実はコロナ陽性者だったなどの予期しないことも度々起きましたが、一度も問題は発生しませんでした。

今では、職員全員が、完全に熟練し、病院の姿勢を分かつてくれていますから、安心して働いてくれていると思います。医療機関での職員の離職が相次いでいると、一人の離職者も出ています。

—— では、京都全体でのコロナ対応はどうだったのでしょうか。

院長 ネットニュースなどのイメージとは違うかもしませんが、実は京都では、京都府のコントロールセンターの采配で、病院間の連携が非常にうまく取れていました。重症患者さんを重症対

応病院へ紹介する「上り搬送」と、そうした重症対応病院のベッドを空けるために移動可能な患者さんを中等症対応病院へ転院させる「下り搬送」のシステムは、当院からも積極的に提言し、中心になって進めきました。おかげで、京都では、病態にマッチした適切な病院での治療を受けることができますし、救急患者さんの早期の病院確保にも役立っています。

—— 当院でもたくさんの患者さんの急変や重症化を経験しましたが、転院の手配のつかなかつた患者さんは一例も無く、夏の第5波では、多くの妊婦さんや若い人の重症化が見られましたが、毎日のように、各病院で上手く対応されていました。

—— 最後に、ここまでコロナとの戦いを振り返って、今、どのようなことを思いますか。

院長 まず、当院の機動力の高さに、正直、驚きました。迅速で的確かつ柔軟に対応することができます。ワクチン事業もできていました。ワクチン事業もそうですが、日常と違う大変な業務が次から次へと降りかかるときましたが、全ての部署が協力しあい、凄まじいスピードで問題が解決していました。

私のもとには、他院から、また、いろんな立場の方々から、相当数の賞賛と驚きの言葉が届いています。また、西脇知事も、わざわざいらしてお褒めと感謝の言葉をくださいました。もう一つ感心したことは、恐怖



10月12日、西脇隆俊京都府知事が京都九条病院を表敬訪問。みんなの頑張りに対して感謝を伝えられた後、病棟を見学されました。

の報道がある中でも、当院では日常の診療が保たれ、病棟の雰囲気に平時となんら変わらぬ和やかさと明るさがあったことです。みんな経験を積み、成長した今、情緒的にも落ち着いていて、どの顔も自信に満ちた良い顔だなあと、よく思います。

私自身はというと、やはりとても自信がつきました。みんながいれば、この先何があつても乗り越えられそうで、みんなには感謝しかありません。そしてこれからも、正しい判断を積み重ね、職員や地域の患者さんを守っていくのです。

みなさん、これからも一緒にがんばりましょうね！

「患者の権利」に関する宣言

京都九条病院では、患者さまの個人としての尊厳が守られ、より良い信頼関係の深まりとともに安心して医療が受けられるように、患者さまの権利に関する宣言を掲げます。

- ① 患者さまは、その社会的経済的地位・国籍・人種・宗教・年齢・性別・病気の種類によって差別されることなく、平等な治療を受ける権利を持っています。
 - ② 患者さまは、自由に医療機関を選ぶ権利を持っています。
 - ③ 患者さまは、十分な説明を受けた上で、治療を受ける権利あるいは治療を受けることを拒否する権利を持っています。
 - ④ 患者さまは、医療のどの段階においても別の医師の意見を求める権利を持っています。
 - ⑤ 患者さまは、医師ならびに医療従事者が患者さまについて知り得たすべての医療上の情報及び個人的情報が保護される権利を持っています。
 - ⑥ 患者さまは、いかなる状態にあってもその人格を尊厳され、また尊厳をもってその人生を全うする権利を持っています。

私達京都九条病院職員は、患者さまの権利を尊重し、充分な相互理解をもって、患者さまが最善の治療を受けられるよう最大限努力します。私達京都九条病院職員は、良質な医療を提供し続けるために、常に前向きに努力することを誓います。

「患者の義務」に関する宣言

医療は、協働作業であり、患者さまの主体的な参加の上に成り立つものであるため、患者さまには次のような義務があります。

- ① 医療者側に正確な情報を提供するとともに、疾病や医療を十分理解するよう努力する義務があります。医師をはじめとする医療提供者に、自らの心身あるいは生活について必要な情報をできるだけ正確に知らせるとともに、納得するまで質問するなどして自らの疾病や医療について十分理解するよう努力する義務があります。
 - ② 医療に意欲を持って取り組む義務があります。検査や治療について、納得し合意した方針には意欲を持って取り組む義務があります。
 - ③ 快適な医療環境作りに協力する義務があります。すべての患者さまが快適な環境で医療が受けられるよう、病院内での規則と病院職員の指示を守る義務があります。また、社会的なルールを尊重し、他の患者さまの治療や検査、療養生活に支障を与えないように配慮することや、医療費を適切にお支払いいただくことも要求されます。

足りなくなつた場合に備えた、宿泊療養施設でのある程度の酸素投与、重症化を防ぐための搬送タイミングなど、当院で対応してきた実績をもとに提案を行つてきましたし、中等症院長会議では、こうした情報を交換することで、専門病棟の知識やノウハウを一般の中小病院に広める中核病院としても機能しました。

たため、新しく受け入れを始め
る病院には、治療薬の投与についてや、容態が悪化した場合の重
症対応病院に送る日安など、さまざまなものハウを、実際の病棟で詳
細に伝え、参考にしてもらいました。

患者さんとご家族の
安心のために、

の恐怖に加え、隔離状況に置かれる場合もあるため、精神的に不安定にならることが多く、精神面でのサポートも重要なとなります。

5S病棟では、患者さんはもちろんそのご家族も含めて心のケアを意識した対応を行っています。

入院中にホームシックになつた子どもさんもいましたし、いろいろ悩みから元気の出ない方もおられました。そんな時は、ス

タツフがこまめに声を掛けてお話を聞き、お菓子を差し入れて励ましたり、気分転換を手伝つたりといった、常に寄り添つたサポートを大切に、心地の良い病棟であるための配慮を考えて、患者さんとともに日々を送つてきました。

看護部長とその他スタッフが手分けをして、毎日、患者さんの病状などを伝える電話を入れ、少しでも不安の解消に繋がるよう努めました。

二〇〇九の厳しい寒間を乗り越えることができたのは、SOS病棟のスタッフだけでなく外来や検査、事務、救急も含めて病院の全スタッフが一丸となつて取り組んでくれたおかげだと痛感しています。



(写真左)患者さんの気分転換にも役立った共有フロア。テーブルには菓子類やお茶、カップ麺なども常備し、自由に利用できるようにした。

(写真下)各個室にはトイレ、テレビ、冷蔵庫が完備されている。



いただけたのではないかと思
います。

「コロナ禍を歩んできた、私たち京都九条病院の「コロナ」対応の軌跡。」

実証的に 感染者対応のノウハウを確立。

○京都府のモデル事業として

軽症者等宿泊療養施設を運営。

当院は新型コロナウイルス感染症

(以下、コロナ)拡大による医療崩壊を防ぎ、医療従事者の負担軽減の目的で、京都府から委託を受けて2020年4月から5階S病棟で軽症者等宿泊療養施設をモデルケースとして2カ月間運営しました。

ナコントロールセンターが宿泊療養と判断した軽症者を受け入れる、つまりあと少しで自宅に戻れる方の施設です。



看護部 部長
南田 喜久美

感染区域と清潔区域のゾーニングを行い、医療・療養環境を整えました。医療環境としては急変時の対応なども考えて機器を揃えました。

○隔離スベースでありながら、最適・快適を目指した療養環境。

どん使命感と共に前向きに成長していきました。

対策を見直しました。

染対策委員と協力し、シミュレー
を行い、防護服の着脱方法など感

看護部の全職員に対しての説明を行った。協力を依頼しました。コロナ

うに、タブレットやホワイトボード、スピーカーなど工夫を凝らしました。ゴミ出しの方法や廃棄のルートなども細かく設定しました。



看護部 課長
脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師
中村 祐司





今回話を聞いた、5S・4S病棟担当の看護師。前列左から、滝村 典子、日比野 洋子、中村 真紀。後列左から、町 綾夏、宮入 彩、宇土 愛

当院のマニュアルです。
この期間、スタッフは試行錯誤を繰り返してノウハウを蓄積し、マニュアルをより実証的なものに作り替えてきました。こうしてできたマニュアルは、府がホテルでの宿泊療養も、強力な基盤となつたのです。

「私たちがやるしかない」 使命感で乗り越えた約2年間。

— いくつもの波を乗り越えた5S・4S病棟（コロナ専門病棟）。その病棟での対応は、どのようなものだったのか、皆さんお聞かせください。

日比野 コロナウイルス感染拡大の波は5つありました。それぞれ患者さんの年齢も傾向も異なり、違った対応を求められました。第2波では大半が若い人でしたが、第3波では高齢の方が多く、介護の必要な方、その中には看取りとなる方もおられました。第4波では40、50代で基礎疾患のある方が重症化するという例が多く出ました。第5波で抗体カクテル療法が導入され、治療後ホテルでの宿泊療養に移っていましたが、それでも、その分、入れ替わりが激しく、患者さんの状態を素早く把握することが必要となりました。

を開始するに当たつてのベースとなり、運営に活かされました。
さらに、この期間に積み重ねた経験は、当院が軽症・中等症対応の病院として機能することになった際にも、強力な基盤となつたのです。

滝村 最初の患者さんは、おむつ交換から食事の介助までが必要な方だったんですよ。隔離期間は終わり、それでも大変でした。

当時はコロナウイルスがどんなものかよく分からず、対応も手探り状態でしたので、いきなり完全防護の装備でケアをしなければならないという事態に緊張しました。

日比野 過酷で思い出るのは、夏の第2波ですね。防護服を身にまとめて、重装備での対応でしたから、暑い中、汗だくでしたよ（笑）。

町 2020年の暮れから年始にかけても大変でした。
— ちょうど第3波の最中で、夕方や夜中にたくさんの患者さんが搬送され、ほぼ満床状態でした。クリスマス頃に患者さんが増えてきて、これ以上感染が広がったらどうなるんだろうという危機感もありました。入院中に脳梗塞を起こした方もおられましたし、酔っ払って転び、運び込まれてきた方が検査をした。入院中に陽性者だつたりと、予期せぬことがたくさん起きました。



防護服に身を包む
コロナ専門病棟の
スタッフ

コロナウイルス感染拡大

第2波

6月1日

◎完全隔離型5階S病棟個室（14床）を
軽症～中等症の入院病床へ変更

4月17日

◎疑似症者1名の入院受け入れ、
当院初のコロナ陽性報告

5月1日

◎MRI前隔離スペースを改良

4月18日

◎5階S病棟南側の
個室（7床）を
完全隔離病室として追加

7月20日

◎実費PCR検査、抗体検査の実施開始

5月8日

◎外来発熱患者
遠隔問診システム稼働

4月27日

◎医師3名による
「コロナ検討委員会」
を設立

6月

5月

8月

7月

7月5日

◎病院裏ビル1階の1室を
有料検査実施場所として整備

4月30日

◎ビニールガウン50枚を配布
(疾病予防研究所作成)



隔離された
実費PCR検査の
検体採取場

◀次頁に続く

管理は全て部屋番号で行っていたんですよ。

滝村 クラスターの発生で複数の患者さんが入院された時にも気を遣いました。

誰から感染させられたという被害意識を持つ方があるのがおられたので、初発の患者さんとその方から感染した患者さんを分けて入院していただくなど、倫理的な配慮が必要でした。

あと患者さんが亡くなつた時の看取りについても悩みました。本来なら、ご家族に来てもらつてお別れをしていただくのですが、そういうことがコロナ患者さんに関してはできなかつたんです。ご家族の方から「最期に立ち会うこともできなつか」と言わることもありました。ご家族のお気持ちを考えると、本当に心苦しかつたですね。

町 5S病棟は、看護師が少数なので、申し送りの時間にいろいろ相談をして、次のスタッフに、この患者さんはこうしてあげたらいとか、勤務中に考えたことや改良点などを伝えるようにしてきましたね。

中村 4S病棟では、PCR検査の結果が出るまで、全ての患者さんに陽性の可能性があるものとして対応します。

陽性かもしない方と陰性かもしない方の両方がおられるので、お一人対応するごとに防護服を着替え、消毒する必要があつて、簡単には次の患者さんへの対応が出来ない、それが大変でした。

宮入 私は途中から5S病棟担当になつたので、感染対策の一つにして

も、通常には無かつたことでしたから、最初は戸惑うことばかりで、慣れるまでに時間がかかりましたね。町 初期から5S病棟に入つている者にとっては、新しくメンバーに加わつてもらえたのはありがたかったです。業務が分担できるというのももちろんですが、それまで慣習的に経験則でやつていたことを見直したり、明確化する必要ができて、既存のマニュアルを追加修正し、情報を共有化していく契機になりました。

——この体験を通して、どういふものが得られたのでしょうか。

滝村 たくさん経験を積み、どうすれば感染リスクを抑え、看護ができるか、その対応法がしっかりと身につきましたし、これから先、また大きな波がきたとしても十分対応できるという気持ちです。

日比野 私は、2021年4月に宮城県の宿泊療養施設に派遣され

ました。ほぼ継続的にコロナ患者さんを見てきたので、病状の変化や注意点が分かるようになっていましたから、派遣先でも早めの対応ができます。そして、そうした情報を他県の方とも共有化することができました。そして、そうした情報を

お一人対応するごとに防護服を着替え、消毒する必要があつて、簡単な看護についての知識を広く伝えられることにも役立つたと思います。

——話を聞く中で、さまざまな苦悩と向き合い、日々患者さんを支え続けたことがとても伝わってきました。

今の皆さんには自信にあふれているように感じます。今回は貴重な話をありがとうございました。



左から、吉松 俊介、段林 圭吾、喜多 純子、神谷 彩純、藤田 有希



コロナ患者さんのリモート面会の様子

7月29日
◎抗体カクテル療法
対象者の受け入れ開始

コロナウイルス
感染拡大
第5波



4月11日

◎宮城県軽症者宿泊療養施設に
看護師派遣

11月1日

◎発熱外来の運営開始



コロナウイルス
感染拡大
第3波



ワクチン集団接種会場

9月28日

◎モデルナ製ワクチン
集団接種開始



5月27日

◎ファイザー製ワクチン
集団接種開始

2021年



12月16日

◎ファイザー製ワクチン
職員接種開始

◎大阪府コロナ重症者センターに
看護師派遣

10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月 3月 2月 1月 12月 11月 10月 9月

ストッパーの役割を任う「発熱外来」。

◎玄関で患者さんの安全を守るスクリーニング。

院内への感染防御の最前線に立ち、関所の役割を担ってきたのが私たち発熱外来です。

当初は、玄関に自動検温機を設置し、傍にスペースを設けて発熱者や感染の疑いある方に対応していましたが、2020年11月に専用の

隔離スペースを確保し、発熱が確認

された方と院内におられる外来患

者さんがまったく接触せずに診察

を受けられる仕組みを作りました。

発熱外来の業務の一つ、玄関口で協力し担当しています。ここでは、発熱している人を見つけ出すとともに、患者さんに受診目的・症状を詳しく尋ね、発熱以外の症状で来院された方であってもコロナ感

染を疑う症状がある場合は発熱

外来のテントに誘導します。

テントを設置し、テントの中で問

診・診察が受けられるように整備

しました。

診察を受けさせていただきます。

◎隔離スペースでも安心して

診察を受けていただきます。

発熱外来の診察は、事前予約と

玄関スクリーニングで発熱外来診

察になった患者さんが対象になり

ます。京都市から濃厚接触者とし

て診察を依頼されるケースもあり

ます。発熱があり体調が悪い方が

ほとんどなので、患者さんの負担を

最小限にするため待機時間が長

くならないように工夫し、通常の

診察の流れとは別の手順で診察を

行います。

来院されたらスクリーニングで、

トイレに近い場所や横になれるスペ

ースがある場所など患者さんの状

態に合わせて待機場所を選定しま

す。そして看護師が問診と必要な

バイタルチェックを行い、その予診票

をもとに担当医師が電話やタブレ

ットを用いて診察をします。診察後

P C R 検査など必要な検査やお薬

の処方を行います。必要に応じて

対面で診察もします。診察の間も

看護師は患者さんの状態を観察し

ながら必要なケアを行い、薬剤師は

投薬の準備、事務は会計をそれぞ

れ並行して行い、隔離スペースだか

らこそ速やかに安心して診察を受

けられるよう配慮しています。

とはいえコロナ感染の疑いがある

というだけで、患者さんやご家族に

は大きな不安があります。看護師

は診察後、症状の対処法や自宅で

の感染対策のポイント、仕事や学校

への対応などについて患者さんやご

家族が納得するまで丁寧に説明す

るよう努めています。

第5波では24時間発熱患者の來

院が途絶えることなく続きまし

た。職員一人ひとりが「うつらない、

うつさない」を合言葉に、自分のテ

リトリーを確実に実施することで、

来院された患者さんの安楽と感染

対策を両立させながら乗り越える

ことができました。今では外来看

護師全員が発熱外来のエキスパ

トとなり、病院玄関の感染対策

の要として活躍しています。



発熱外来専用のテント。内部は4つの問診スペースに別れている(写真上)。

玄関口には常にスタッフが常駐し、来院される方々の体調等をチェック(写真左)。



事務部 参与



看護部 課長

島本 泰正

大西 ひかり



看護部 課長

芦澤 曜子



地域医療連携室
社会福祉士

増田 純平



発熱患者さんに対応する、発熱外来の看護師



来院される方々を見守るスタッフ



京都の皆さんを支え続ける、
当院のワクチン接種とPCR検査。

ワクチンを早く 皆さんに届けるために。

◎当院スタッフ、 地域医師会の協力で、 順調にワクチン接種を実施。

当院は、早い時期から院内でワクチン接種を実施するともに、さまざまな集団接種会場で中心的な役割を担い、多くの皆さんにワクチンを提供してきました。



副院長
脳神経外科主任部長

榎原 毅彦



◎一人でも多くの方に、 1日でも早くワクチン接種を することを実現させました。

当院では市内の医療機関の中でも早期にワクチンの供給を受け、2021年3月5日から院内でワクチン接種を開始しました。

職員、周辺の診療所や訪問看護師、歯科医などの医療スタッフ、かかりつけの患者さんをはじめ地域の方々、医療系の大学生、専門学校生など総接種者は1万5000人を超みました。

ワクチン接種に際し予約の段階から集中することが予測され、多数の方が密を避けスムーズに接種できる流れを構築する必要

特にワクチン接種後の急変に対応できるよう待機場所には常時看護師を複数人配置しました。通常の外来業務を行なが

るの実施であるため、病棟や手術室看護師からも応援体制をとり、異常を訴えられた方にもすぐに対応し、接種者が混乱することなく適切に安全に進めていくことができました。

◎当院職員が 集団接種会場で大活躍。

院内接種と並行して、5月末から開設された集団接種会場（京都駅前イオンモール、三哲ビル、マム・スクエア、京都市役所前、池坊大学など）にも、京都府・京都市・京都私立病院協会の委託を受けて、医師、看護師、薬剤師、

事務部 部長

三好 智和



事務や関係者の方々にも多大なご協力を賜りました。心より感謝しています。

これからも、ワクチン接種によって、皆さんに安心を届けられるよう、当院スタッフ一同頑張っていきたいと考えています。

受付で接種者本人の確認、接種券と予診票の確認、適度な間隔を保有した待機場所の確保、接種後の観察、それら一連の動線が交差せず一方通行に流れるよう、従来の外来で時間とスペースを確保しました。毎日ワクチン接種業務を行いながら、何度もワクチン接種者の動線をシミュレーションし、より良い方法を工夫しました。

これからのワクチン接種の動線は待機者に余ったワクチンを接種するという方法をとり、貴重なワクチンを一本も無駄にすることなく実施できました。

向が気になるところですが、今後も私たちは安全な環境で実施できるよう万全の態勢をとっています。

し、急なキャンセルがあつた場合は待機者に余ったワクチンを接種するという方法をとり、貴重なワクチンを一本も無駄にすることなく実施できました。



薬剤部 副部長

國永 智昭

事務職員など延べ500人(うち看護師350人)の職員を派遣しました。

当院スタッフは、こうした集団接種会場でも物品の購入・準備、会場の設営・運営などにおいて中⼼的な役割を担っています。院内接種の経験をもとに、強い副反応が出る可能性のある予約者がいる場合は、予め当院救急外来のスタッフにも受け入れの用意をしてもらうなど十全の準備を整えて臨みました。

受付業務を担当した医事課職員も現場のイレギュラーな事態に臨機応変な対応を行い、接種の円滑な進行に大きく寄与しました。こうした当院スタッフの活躍は、府や市はもとより他病院からも高い評価をいただけています。



医療技術部 部長
真田 佳典

保険適用の検査では、発熱外来で検体を採取。保険適応外の方などには保険適用外で検査を受けていたいただいています。

◎丁寧な説明で、
外出・接触自制を要請。

コロナの症状があつて検査を受けた方には、結果が出るまで出社、外出を控えご家族とも接触を避けてもらう必要がありますが、中には、「単なる風邪なのに…」とおっしゃる方もおられ、丁寧に説

P C R 検査の総検査数は6300件超。

◎953人の新規陽性者を検出。

当院では、2020年の2月

からコロナ感染の有無を調べるPCR検査を実施しています。

検査には、保険適用検査と保険適応外(自費)検査の2種類があり、コロナの症状がある方、保健所からコロナ陽性者の濃厚接触者と認定された方、来院患者さんで感染が疑われる方などには保険適用で検査を受けています。

ただ、仕事の関係でPCR検査の結果証明が必要だったり、症状の有無に関わらず感染が心配、海外への渡航証明が必要という

方などには保険適応外で検査を受けていたいただいています。

今後も、これまでの経験値を生かし、安全で確実なPCR検査体制を続けて参ります。

※検査数は2021年9月時点

検査は、別棟にて採取を行います。

保険適応外の検査をはじめるに当たっては、無症状の方が対象となります。

からは、検体採取者や検査を受けた方が感染しないようにゾーン

ゲを徹底し、飛沫感染を防ぐためのロング手袋付き防護シールド

を設置するなど万全の対策を取りました。

どちらの検体採取も細心の注意を払ってきたことで、検査数

6372件の内953人の陽性

の方がおられましたが、一人の院内感染者も出ていません。

また、結果が陽性の場合は、保健所に届け出をして指示を受け

る流れになりますが、陰性と出ても偽陰性(感染者と接触して

明をして、外出・接触の自制をお願いしました。

また、結果が陽性の場合には、保険所に届け出をして指示を受け

る流れになりますが、陰性と出ても偽陰性(感染者と接触して

明をして、外出・接触の自制をお願いしました。



物資の不足していた中、スタッフが自作し設置した検体採取用のロング手袋付き防護シールド。



京都九条病院に寄せられた皆さまの声が、支えになっています。

新型コロナウイルス感染症拡大の中、皆さまから感謝の手紙、温かい応援メッセージが数多く届きました。先の見えない状況下に届いたこの皆さまの声は、私たちの心の支えとなり、また日々の感染症に立ち向かう力となりました。皆さま本当にありがとうございました。



お寄せいただいたメッセージの一部を掲載させていただきます。



令和3年度 京都九条病院 永年勤続表彰

2021年11月30日に、京都府内の民間病院で構成されている京都私立病院協会の創立57周年記念式典に於いて、永年にわたり地域の保健、医療、福祉に寄与したとして、京都九条病院の職員計14名が、永年勤続職員として表彰を受けました。

今回は、コロナ禍ということもあり、式典への出席を極力控え、院内にて職員14名を称える表彰式を再度とり行いました。

永年勤続職員表彰者（計14名）

奥田 修一	小川 貴弘	西星 豊子	中村 真紀	道下 智之
（総務課）	（臨床工学課）	（4階病棟）	（3階病棟）	（地域医療連携室 課長）
日笠 雅子	梅原 恵美子	岡本 芳也	川口 めぐみ	坂東 みそめ
（4階病棟）	（4階病棟）	（医事課係長）	（医事課係長）	（2階病棟係長）
西星 豊子	中村 真紀	水上 千秋	（外来）	木村 真知子
（4階病棟）	（4階病棟）	（5階病棟主任）	（医事課主任）	池田 昌司
小川 貴弘	梅原 恵美子	岡本 芳也	（医事課主任）	溝川 雅史
（総務課）	（4階病棟）	（医事課主任）	（医事課主任）	川口 めぐみ



左から、日笠 雅子、小川 貴弘

西星 豊子

左から、木村 真知子、岡本 芳也

左から、川口 めぐみ、水上 千秋、中村 真紀、梅原 恵美子、道下 智之、坂東 みそめ

左から、池田 昌司、溝川 雅史、奥田 修一

京都九条病院

〒601-8453
京都市南区唐橋羅城門町10
TEL 075-691-7121(代)

医療法人同仁会(社団)

介護老人保健施設 マムクローラ

〒617-0853 京都府長岡市奥海印寺奥ノ院25-2 TEL 075-958-3388(代)

医療法人同仁会(社団)

訪問看護ステーション・マム

〒601-8454 京都市南区唐橋経田町16 TEL 075-661-3820(代)

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院

京都市唐橋地域包括支援センター 京都市唐橋地域包括支援センター 介護予防支援事業所

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町38マム・スクエア内1階 TEL 075-694-6222(代)

医療法人同仁会(社団)

同仁会クリニック

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30 TEL 075-691-7766(代)

医療法人同仁会(社団)

介護老人保健施設 マムクオーレ

〒601-8326 京都市南区吉祥院南落合町40-3 TEL 075-691-7755(代)

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院

訪問リハビリテーション

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10 TEL 075-694-6644(代)

医療法人同仁会(社団)

居宅介護支援マムステーション

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町38マム・スクエア内2階 TEL 075-694-6699(代)

医療法人同仁会(社団) 同仁会クリニック(併設)

同仁会疾病予防研究所

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30 TEL 075-691-5070(代)

医療法人同仁会(社団)

介護老人保健施設 マムクオーレⅡ

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町38 TEL 075-694-6655(代)

医療法人同仁会(社団)

ヘルパーステーション マム

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町38マム・スクエア内2階 TEL 075-694-6622(代)

医療法人同仁会(社団)

保育所 まむむ

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町38マム・スクエア内1階 TEL 075-694-6680

京都九条病院(提携)・同仁会クリニック(併設)

メディカルフィットネスクラブ SHIN-SHIN

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30 TEL 0120-558-756